

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【体育科】

1. 対象 特別支援学校 小学部6年（15人）

表現方法については未熟な部分があるが、日常会話ができる児童から、意思表示はクレーン動作のみという児童まで実態の幅は広い。1学期の体育や自立活動の中で様々な体の使い方を行ってきた。少しずつ自分で模倣したり、支援を受けて体を動かしたりすることに慣れてきた児童も多い。

2. 単元名 「またいでくぐってゴールまで」（全12時間）

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	・低い障害物をまたいだりくぐったりするための体の使い方を知る。
思考力，判断力，表現力等	・低い障害物をまたいだりくぐったりするために、低い姿勢をとったり、足を高くあげたりしようとしている。
学びに向かう力，人間性等	・順番を守り、合図があったらスタートしている。

4. 本時の目標

バーをくぐるための姿勢を知り、バーをくぐりぬけることができる。

5. 授業展開【（本時）・単元】

解決したい課題や問い

○このバーに当たらないようにくぐりましょう
どんな動きだとバーに当たらないかな。

考えるための材料

- ①ネットをくぐり抜けることで、くぐるための体勢を体感する
- ②活動の様子を iPad で撮影する
- ③バーが当たりそうな体の場所に教師が手を触れる
- ④教師が模範を見せる
- ⑤コーンとバーで障害物を作り、体が当たるとバーが外れるようにする
- ⑥難易度をいくつか設定する

想定される活動

- ①「この姿勢きついな」 くぐるための低い姿勢を知る
- ②「もっと低くかな」 タブレット型端末で撮影した様子を見ることで、バーに当たった場所が分かる
- ③「体を下げよう」 体を触られることで、その部位を意識して、体を下げようとする
- ④「やりたい」 教師の模範を見て、まねしようとする
- ⑤「落ちちゃった」 バーが外れることで、もっと体を低くしようとする
- ⑥「難しいな でもやってみたい」 難しいものに挑戦しようとする

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

- ・友達と撮影した動画を見合い、バーに当たった場所を教え合う
「ここが当たっているよ。」「〇〇を低くすればいいのかも。」「やってみよう。」
- ・体に触れられた場所に気づく
「あれっ、触られた。」「バーに当たった。」「どうしたらいいかな。」「体を少し下げよう。」
- ・教師のまねをしたい
「体が地面についている。」「腕で前に進んでいる。」「足も動かしている。」
- ・バーは外れちゃった
「落ちちゃった。」「もっと低く。」

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- ・ いろいろな動きを試してみる 「これやりたい。」
- ・ バーを体で感じるようになる （バーに当たった時バーを落とさないよう、動きがゆっくりになる）
- ・ バーが外れた時に悔しがる 「もう一回。」
- ・ 触られた体の場所を下げようとする 「当たらないように。」
- ・ 難しいものに挑戦しようとする 「できた。」